

柑芦会 本部 ニュース

第 16 号 2020. 10. 27.



国立大学法人
和歌山大学

—そしてここから—



1. 寄稿



<経済学部長 マグレビ・ナビル>

経済学部における伝統と革新

10月22日に和歌山大学で、国立12大学（旧高商等）経済学部長及び事務長会議、教員懇談会が開催された。わたくしが協議事項のテーマとして提案したのが、「経済学部における伝統とイノベーションのバランス」である。このテーマを提案した理由は次である。

2040年に向けた高等教育のグランドデザインにおいて、教育プログラムの多様性・柔軟性または学生と教員の多様性等を求めることが求められている。変化の激しい経済社会システムと21世紀型スキルと能力が必要とされる人材を育成するため、高等商業学校を母体とする国立大学法人の経済学部として、伝統・イノベーションのバランスを活かす長期的成長戦略が必要である。

そこで、12大学につきの質問をした。

1. 日本企業・政府等が求める学際的な人材を育成するため、経済学部で何を学んで、身に着ける必要があるのか。
2. グローバル人材育成のため日本語・英語での専門科目はどのように考えられるか。
3. 採用人事における伝統的な経済学・経営学・法学以外の戦略的な学問分野についてどう考えるか。
4. 上の目的を達成する場合のハードルは何か。

これについて、概ね次の回答を得た。

1. については各大学共に意識を有し、それぞれの範囲内でそれぞれの多様な教育を行っていることが分かった。
2. についてはほぼどの大学でも全般的にではないが、グローバル化を意識した英語教育や留学などに力を入れていることが分かった。
3. については伝統よりもイノベーションへの指向性が高い。つまり情報・データサイエンスなどへの学問領域である。
4. 3. と関連するが、しかいづれの大学も予算が圧迫化し、かつ人事採用権が大学本部に移

るなどの困難を抱えている。

いずれの大学の回答もイノベーション指向という点では共通していると思われるが、多様な学問領域を有する伝統をこのイノベーションにいかに関係させるのかという点が不明であった。

古来、学問には蓄積された巨大な知を継承しながらも、過去にはなかった新たな展開への対峙が必要とされてきた。社会は加速度的に変化してきている。そのために取り残されないための戦略は重要である。しかしその戦略はどの大学の経済学部であっても展開しうるものである。多様な学問領域を有してきたという伝統を有する和歌山大学をはじめとする12大学が、その資産をいかに活用していくのかに、さらに未来への可能性がある。

会議資料の表紙として一つの冊子には現在の栄谷キャンパスの経済学部の建物を、もう一つの冊子には高松キャンパスの経済学部の建物を使用した。皆さんからも引き続きご指導をいただきたい。

<柑芦会 会長 北村修一>

「還暦からの底力」を読んで

私の好きな著者であり講演者の一人に出口治明さん（立命館アジア太平洋大学＝A P U学長）がいます。ご存じの方も多いと思いますが、出口さんは私と同じ1948年生まれの72歳で、日本生命保険を退職したあと、60歳でネットライフ生命保険を創業した人です。4年後には株式を上場し、社長を若手に譲って会長職をしていましたが、10年後の2018年に現職に応募して学長になった人です。今日はたくさんの著書の中から「還暦からの底力」（講談社現代新書）をご紹介させていただきます。

この本によれば、人生100年時代では、20歳までを子供とすれば大人としての人生は80年あり、20歳から働き始めて大人時代の半分の40年が経過した60歳は、ちょうど人生のど真ん中であり折り返し地点でもあるそうです。そこからまだ40年間も残されているのに、還暦で自分の人生は終わりだとか、還暦後は余生だとか考へるのは間違いである、と指摘しています。

また日本は世界でもトップクラスの長寿国ですが、せっかく元気で長生きできているのに、働きたくても働けない「定年制」はやめるべきだと主張しています。つまり人生100年時代にはやりたいことや好きなことをやり、それをやるために働くのがよい、ということです。

そして高齢者は身体も脳もよく使い、自立した生活をして老化を遅らせると共に、必要になったら互いに介護に努めて医療費や介護費を少なくすることにより、できるだけ若い世代の足を引っ張らないようになります。すなわち、高齢者は「次世代のために働く」ことに意味があり、「次世代を健全に育成するために生かされている」と考へることを提唱されています。

私はこの考え方の大賛成です。この考え方に基づいて同窓会を考えるとき、会社を定年になったからといって自宅に引きこもり、あるいは趣味と昔話の世界だけに閉じこもるのは少し寂しいのではないでしょうか。世の中や身の回りの小さな社会のため、あるいは後輩や母校のためにできることを何か一つでも始めてみてはいかがでしょうか？

2. 支部情報

神戸支部

オンライン総会を終えて

神戸支部 支部長 平林義康

当初10月に予定していた会議形式での支部総会・懇親会はコロナ禍の影響で中止となりましたが、これに代わるものとしてWEB会議システム「ZOOM」を使ってオンライン総会を実施しましたのでその概要をご紹介します。

参加者は23名でしたが、その内13名は各自のパソコン、スマホを使用してリモート参加し、10名は神戸元町の会場でソーシャルディスタンスをとって会議形式での参加となりましたが、会場ではパソコン一台とプロジェクターを使って対応しました。従って、今回の総会は完全なオンラインではなく、いわば、ハイブリッド形式の総会となりました。参加者の内訳は、神戸支部会員17名（会場10名、リモート7名）、柑芦会本部2名（リモート）、他支部4名（リモート）です。

18時30分から開始され19時30分に終了した総会では、2019年度の活動報告・会計報告、2020年度の運営方針（案）・会計予算（案）他が審議されいずれも異議なく承認されました。総会終了後の19時30分から20時までは、2016年度の支部総会・懇親会でご講演頂いた講師・旭堂南海師匠の「和歌山大学物語」をビデオ上映し和歌山大学経済学部の創立の経緯について理解を深めたところです。

なお、総会開始の冒頭にリモート参加頂いた北村柑芦会会長よりご挨拶を頂きました。要旨は次の通りです。

『①神戸支部の皆さん、各支部の総会やイベントが軒並み中止される中で、前例や慣習にとらわれずに新しいやり方にトライされたことに感謝します。柑芦会として初めての取り組みのため色々な不具合や課題が見つかると思うが、それらは是非他の支部にも共有して頂きたい。

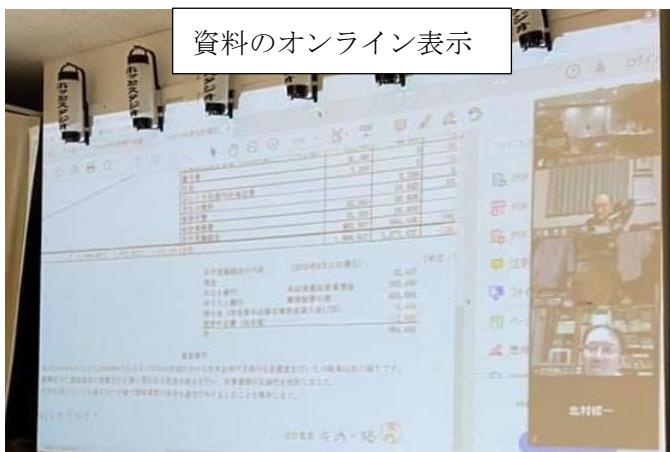
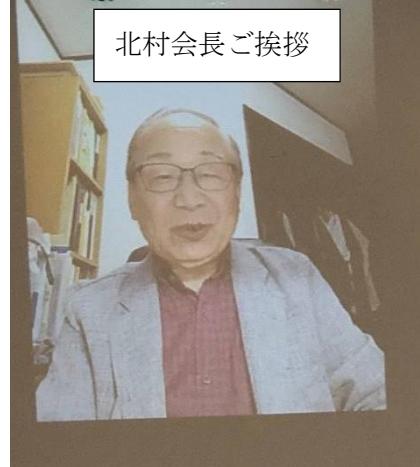
②他の支部の皆さん、コロナ禍の終息が見えない中では、神戸支部のように新常態（ニューノーマル）に向けての取り組みが重要です。いいことはお互いに取り入れ真似をして、またいくつかの支部同士で連携したり助け合って、ピンチをチャンスに変えていきましょう！ これらの積み重ねが柑芦会の活性化に繋がります。よろしくお願ひいたします。』

最後に、今回のオンライン総会では以下の諸点が改善点としてクローズアップされたと考えております、次回以降のオンライン会議の企画・運営の際に反映して行きたいと考えています。

- ①参加者は出来るだけイヤホンを使用する。特に話すことが予定されている人は出来るだけインカムなどの専用マイクを使用したほうが良いのではないか。
- ②話者以外の人はミュートにした方が良いのではないか。
- ③資料を共有する場合は、配布用とは別に、大きな文字でオンライン用の資料を作成し使用したほうが良いのではないか（オンライン用資料は準備したが、文字が若干小さかった）。
- ④話者は姿勢を正しくしたほうが良いではないか（足組などはしない）。
- ⑤発言したい人は手を挙げて意思表示し、司会者が指名した後発言するようにしたほうが良いではないか。

⑥発言に同意の場合は大きくうなづく、拍手をする、など、声を出さずに意思表示をしたほうが良い良いのではないか。

以上



3. 学生情報

①ヨット部

先日 10月 10日（土）・11日（日）新西宮ヨットハーバーで行われた【令和2年度関西学生ヨット選手権大会（関西インカレ）】において、470級第2位、総合第3位の好成績を収め、10月29日から11月3日にかけて行われる全日本学生ヨット選手権大会に出場することとなりました。

<http://kansaigakurenyacht.com/>

<http://kansaigakurenyacht.com/race.html>

第85回全日本学生ヨット選手権大会

<http://www.kansaigakurenyacht.com/85th/top.html>

また、関西インカレの前週に行われた、関西学生ヨット個人選手権大会で村瀬慎太郎（経済学部3年生）・犬伏亮太（経済学部1年生）ペアが3位入賞を果たし、全日本学生ヨット個人選手権大会への出場が決まっています。

②硬式野球部

和歌山大学硬式野球部
69期主務 荒木拓海

2020年度秋季リーグ戦を終えて

平素より、北村会長をはじめとする柑芦会の皆様には、多大なるご支援ご声援を賜り誠にありがとうございます。この度は、このような結果報告の機会をいただき、重ねてお礼申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、野球に限らず様々な大会が中止を余儀なくされております。春季リーグ戦の中止が決定され、秋季リーグ戦も開催が危ぶまれましたが、所属連盟の皆様や大学関係者の皆様にご尽力をいただき、無事に開催、出場することができました。

今季のリーグ戦では、2018年秋季リーグ戦以来の優勝を目指に掲げ、11戦を戦いました。結果は、ライバルである奈良学園大学が10勝2敗勝ち点5で優勝、和歌山大学は9勝2敗勝ち点4と1勝の差で優勝を逃すものになりました。昨年度の春季リーグ戦から3季連続で1勝の差で優勝を逃すことになり、勝ち続けるチームを作り上げる難しさを感じました。また今季は、敢闘賞として土田佳武（経済④・山梨学院）、遊撃手ベストナインとして白石雄大（経済③・佐久長聖）と2名が表彰をいただきました。

今リーグ戦の閉幕をもって、69期生である4回生は引退となります。69期生は入学してすぐにリーグ初優勝、そして全日本大学野球選手権大会に初出場しベスト8と、和歌山大学硬式野球部が歴史を作った瞬間に立ち会った最後の学年でした。再び神宮の地に舞い戻り、後輩たちにも神宮・全国の舞台の素晴らしい景色をなんとか感じてもらえるようにと取り組んできましたが、叶いませんでした。来季は今季主力として試合で活躍してきた選手が多い70期生が最上級生としてチームを引っ張ります。必ずや1勝の壁を越えて優勝、そして神宮の舞台で「日本一」の目標に向かって戦う姿を見せてくれるはずです。柑芦会の皆様におかれましては今後とも、和歌山大学硬式野球部にご支援ご声援を賜りますようお願い申し上げます。

秋季リーグ準優勝

<http://www.kinkigakusei.shop/custom5.html>



4. お知らせ

「和歌山大学の歴史と展望 - 21世紀大学論 -」寄贈さる

この度、大学より「和歌山大学の歴史と展望 - 21世紀大学論 -」という副読本の冊子を頂きました。

本冊子は2017年に発刊されたもので、教養科目の一つである「21世紀大学論」において講義された先生方によるレジュメをベースにまとめられています。

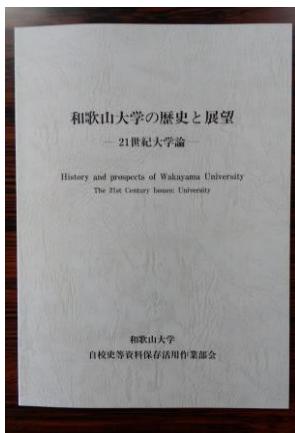
経済学部関連では、「和歌山大学の歩み - 高商から経済学部へ -」という表題で上村雅洋教授（当時）による和高商開校から経済学部へ至る変遷につき詳説された論文や、「卒業生から見た和歌山大学経済学部 - 歴史と校風 -」という表題で青柳明雄客員教授（当時）によるレジュメが掲載されています。

卒業生の皆様でも意外にご存知ではない歴史的な項目が多数紹介されていますのでご参考になるのではないかと存じます。

2021年以降の教養科目としての「21世紀大学論」が未だ確定していないことや、執筆された先生方が替わられていることもあり在庫されていた冊子を柑芦会にご寄贈いただいたものです。

部数に限りがございますが、ご希望の皆様がおられましたら本部（下記）までご連絡頂ければお届けいたします。

青柳 明雄（柑芦会前会長）



「和歌山大学の歴史と展望
－ 21世紀大学論－」
→ご希望の方は、下記柑芦会本部まで
必要部数をご連絡ください。（事務局）



和歌山大学経済学部同窓会 柑芦会 本部 事務局

〒540-0012 大阪市中央区谷町4-4-17 ロイヤルタワー大阪谷町 207号

Tel: 06-6941-4986 Fax: 06-6947-7925

E-Mail: honbu@kourakai.com URL : <http://www.kourakai.com/honbu/>